



## スタバ齋藤の「攻殻機動隊 2nd GIG」 アフレコ潜入レポートの巻

スタジオ見学初体験!! スタバが見たアフレコ現場とは!?

普段は一視聴者として「攻殻機動隊 2nd GIG」を観ているだけだったスタバ齋藤が、初めて見たアフレコ現場と音声収録の様子。そこにはいったい何があったのか? 声優の様子は? スタバ視点からのアフレコ現場レポートだ。

**どうですスタバさん、アフレコの現場とか見てみます?  
ええっ!! 見たい!! 見ます!! 現場見させろーッ!!**

「いつも部屋にこもって文字書いて疲れるでしょ外出たいでしょ、どうですスタバさん、アフレコの現場とか見てみます?」という福音的な言葉を本DVD制作要員からいただいた瞬間、俺は超即答ッ!!

モロチン!! 違うモチロン!! 行きます見ます見せてください攻殻のアフレコ現場ってのを一度でいいからお願いしますッ!! てなわけである。俺は死ぬまでに一度でいいからアニメのアフレコ現場ってのを見たかった!! そんな俺には渡りに船の仕事なのである。

一連の「攻殻機動隊 S.A.C」のDVDに収録されたアフレコ映像等は観ていた俺だが、見学した結果、多々の感動的発見があった。アフレコって凄い!! 声優って凄い!! もっと現場風景を見たい!!

やたら感激する俺を見て、先の編集要員は「スタバさんの好きな、荒巻、サイト、そして大好きなゴダが総出演している丸秘アフレコ映像もあります、見ます?」と、さらにオイシイ話を!!

俺が見学したアフレコ現場には、バトーと少佐以外のメインキャラ(の声優)がいなかったの、制作要員~そのビデオテープをよこせえええッ!! と、2nd GIGのOA.04「天敵 NATURAL ENEMY」のアフレコ現場を撮影した無編集映像(付属DVD「INTERVIEW ARCHIVES」に映像の一部が収録されてるヨ!!)も徹底視聴し、再度大感激!!

てなわけで、以下にその感動のアフレコレポートをお送りする。

の、前に、攻殻を始めとするアニメのアフレコが、どのようなタイミング・方法で行われているのかを、ザッとお説明してみよう。

アフレコのタイミングは、左ページの図のとおり。アニメの動画部分が完成した時点でセリフの録音(アフレコ)が行われる。絵コン



★「攻殻S.A.C」シリーズのアフレコが行われる東京テレビセンター。使われるのは東京テレビセンター内の101スタジオだ。スタジオの入り口を入ると、まずミキサーを始めとする録音機材が並ぶ部屋(副調整室)がある。さらに奥に行くと、副調整室と防音ガラスで仕切られたスタジオに入る。スタジオ内では、動画に合わせて声優がセリフを話し、それを副調整室にいる神山監督や若林音響監督、他サウンドエンジニアがチェック・録音するというわけだ。ちなみに筆者の拙者が居たのは副調整室のガラスのすぐ手前。声優さんらを間近で見られて(って見せモンじゃねーぞ)俺感動!! であったが、入れ替わり立ち替わりステキな声で演じられる声優さんをガラス越しに見ていたら「あら何だか水族館に来てるみたいカモ」とか思った。の、だ、が、実はガラスを通して見えるこのスタジオ、関係者からは「金魚鉢」と呼ばれているのだそうだ。なるほど、確かに。納得。



★音響監督のプリフィングに耳を傾ける声優たち。監督が直接、声優に対して指示を出すケースが多い。が、「攻殻S.A.C」シリーズでは神山健治監督が若林音響監督と話し、若林音響監督が声優に指示等を出す。神山監督は声優と仲が悪い……のではなく、「音のコトはこのヒトに一任!!」ってことで若林音響監督に絶大な信頼を置いているということだ。



★スタジオの外およびスタジオ内には、録音等の状況を示すランプが設置されている。本番の録音が始まると「SHOOT」の表示がオレンジ色に光る。これが光っている時はドスト歩くと雑音出しちゃダメよ、ってコトだ。が、見学中、この表示が光るたびに何だか緊張度倍増していた俺であった。

テが貼り付けられた程度の動画(!?)へのアフレコも少なくないそう。ともあれ、この時点では、映像は完全に無音。アニメに対する初の音入れがアフレコなのだ。……詳細は後述するが、音無し動画に声が入ると、突如、アニメに魂が宿る。その瞬間を目撃すると「声優はアニメにおける“ゴースト”かも」と感じたりする。

さて、そのアフレコだが、これにもいくつかの手順がある。現場によって多少違うと思うが、「攻殻S.A.C」の場合はこんな感じ。[音響監督から声優への要旨・注意点説明等]→[リハーサル]→[場合によってはラストテスト]→[本録り(部分テイク等も含む)]。

まず音響監督の若林和弘氏から声優へ、この話はこんな内容でキャラクターはこういう気持ちなのでこの点はこう注意してネ、的な指示が出される。音響監督vs声優の間での打ち合わせタイムですな。

その後、一度リハーサルが行われる。プロでも一応練習っすね。

リハーサル後、必要に応じてセリフの言い直しやセリフ自体の修正等指摘が、再度若林監督から声優に出される。通常はその後スタジオに本番の録音が行われるそうだが、状況によってはもう一度リハーサル(ラストテストと呼ばれる)が行われることもあるらしい。

で、録音。後、一部録り直し等をし、アフレコ終了、てな進行だ。

なお「攻殻S.A.C」のアフレコにかかる時間だが、通常は一日に一話分の録(午前に一話の前半、午後以後半)。一日に二話分録ることもあり、その場合は夜中過ぎまでかかる。「攻殻S.A.C」への出演が初めての“ゲスト声優”がある場合はさらに時間がかかる。

ちなみに「攻殻S.A.C」のアフレコ現場は東京テレビセンター(通称;テレセン)の音声スタジオだ。映画やテレビ等の映像作品の制作現場として知られるが、アニメ作品のサウンド制作現場としても有名。日本を代表する世界的アニメから夏休み大公開の劇場版アニメ・実写モノ等々、多々のサウンド等制作がココで行われている。

今回の取材……ていうか趣味的アフレコ見学(!?)および丸秘ビデオに収録されたアフレコは全て、このテレセンの101スタジオでのものだ。テレセンって意外なほど古くて年季入ってますなと思ったのはさておき、非常に面白く興味深く意外な発見を多々できた。